



今月の一文字

残間里江子さんが選ぶ
静岡の良さを表現する一文字。

いつも真正面から“直球”勝負の静岡人。率直で素直な直情気質は魅力的。



著書のご紹介



「引退モードの再生学」
新潮文庫 500円(税込)

すっかり現役を退いた気分の大人の皆さん、「個人としての自分」を取り戻し、もう一度本気で幸せを目指しませんか——変化に富んだ時代に揉まれながら、青春を謳歌し、懸命に働いてきた“新シニア世代”。日本の未来は、巨大な潜在力をもつ彼らの活躍にかかっている。1950年生まれの著者が同世代へ贈る、熱い想いのこもったメッセージ。

そこへいくと静岡の人たちはいつも真正面からの直球勝負で、小気味よかった。最初の頃、我が家は屈託の巣窟みたいな生活だったから、ネガティブな側面を理解されないことに苦痛も感じたが、やがて友達が増えるに従い、素直で率直な直情気質に魅了されて行った。こうしたものごとをまっすぐ捉えるおらかな気質は、サービス業に向いているように思う。

この時代、特に期待されているのはアジアからの観光客だが、アジア諸国との間には不幸な歴史も内在しているので、ここで求められるのは、素直な気持ちのもてなし心だ。

私が総合プロデューサーを務めた「ユニバーサル技能五輪国際大会」が成功裏に終わることが出来たのも、国内外からやってきた選手や関係者、見学者に対する明るく前向きな、県民の持つサービスソフト

のお蔭だった。

すでに県内には魅力ある観光資源が多数揃っているのだから、ここに静岡人的ホスピタリティがあれば鬼に金棒、日本の観光に大きな可能性を与えることになるだろう。

課題があるとすれば、行政の国際化で、先般中国に強力な回路を持つ人と話していたら、富士山を擁する静岡は中国人の憧れでもあるのだが、中国国内では「静岡」という地名をそのまま中国語読みをするため、イメージがうまく固まらないのだと言っていた。

この先、中国のみならずアジア諸国に進出する際にも国毎にバラバラに読まれるのは得策ではないのび、「SHIZUOKA」に統一したほうがいいのではないかと、その友人は言っていたが、私も全くその通りだと思った。

人を温かく迎え入れてくれる静岡人気質を主軸に据え、是非とも「ようこそ JAPAN」の先頭を走って貰いたい。

